150　No.12:本県関係者の草の根交流－ベトナムやタイに笑顔
（令和 2 年 2 月 26 日）

日本では年間 5 万台以上の車椅子が廃棄されている。まだ使えるのに「もったいない」と、全国の工業高校生が古い車椅子を整備し、アジアの国々で車椅子を必要とする人たちにプレゼントしている。車椅子は飛行機で届けられるので「空飛ぶ車椅子」と呼ばれ、栃木工業高では 1991 年から 30 年近くにわたってこの取組みを続けている。

【車椅子を修理する様子】

第 27 回となる今年度は、タイのバンコクから西に 100km ほど離れたカンチャナブリのマカラク病院において、14 台の車椅子の寄贈と修理活動を行った。

近隣の病院から運び込まれた車椅子は 37 台。栃工生 14 名は 5 つのグループに分かれ、須釜喜一学校長をはじめ引率の先生方も一緒になって、錆落としやタイヤ交換、ブレーキやフットレストの取り付け・調整、フレームの溶接など総合的なメンテナンスを手際よく行った。

車椅子修理 3 日目には、小児科病棟で交流会を開催。入院している子ども達を元気づけるため、生徒たちは日本のアニメソングや踊りを披露し、笑顔にあふれる楽しいひとときとなった。

夕方、整備が終わった車椅子を受け取った現地の人たちは、皆一様に感謝の言葉をつづり、タイ語が分からない生徒たちではあったが、心を通い合わせ、大きな達成感を味わっていたと思う。この貴重な経験を糧に、これからも「和顔愛語」の精神を実践してくれるだろう。

一方、本県出身でベトナムのハノイで飲食店を経営する松尾英子さんは、孤児院や養護施設に対する慰問、支援物資の寄付を行っている。本年度はハノイ市内の有志の方々と協力し、ベトナム北部のハジャン省において、暴風雨で壊れてしまった学校に対し、机と椅子 50 セット、浄水器、ロッカー、絵本、遊具などを寄贈した。

ハジャン省はハノイからバスで片道 8 時間の中国との国境付近の山岳地帯で、冬には雪が積もる。ここで暮らす人たちは皆、貧しい。彼らに食料や毛布、寝袋、長靴など暖かい物資を届けることで、心と心を通わせている。

一人ひとりの力は決して大きくないが、こうした草の根の取組みを続けることが、タイやベトナムと日本との交流に大きな役割を担っていると思う。言葉はわからなくても、子ども達の笑顔に国境はないのだから。

毛塚　隆弘(けづか　たかひろ)
栃木県香港事務所所長。
1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。